

# RPJ News

2021年 7月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 070-8438-0688

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

## 内 容

### \* リチャード・ヴァンホーンさんへの感謝を込めて

実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘

### \* 2019年イタリア地域精神保健研修報告 第10回

3 フリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州トリエステの研修

3-3 リハビリと住居のユニットでの研修

### \* 事務局からのお知らせ

### \* リチャード・ヴァンホーンさんへの感謝を込めて

実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘

6月号でリチャード・ヴァンホーンさんの逝去の報に接し、ヴァンホーンさんとヴィレッジの皆さんへの感謝の気持ちを改めて述べたいとの思いで原稿に向かっています。

ヴァンホーンさんとの最初の出会いは、1995年12月の第1回ヴィレッジセミナーに参加した時のことです。同年、谷中さんがヴィレッジを訪問された後、富山にお越しになり「アメリカのロサンゼルスにやどかりと似た面白い活動をしているところがある」「ぜひ研修に参加してみないか」とお誘いをいただきました。

当時、民間精神科病院に席をおきながら地域の様々な関係の方々と共に、地域断酒会・家族会・いくつかのタイプの共同作業所・グループホーム・株式会社(ソーシャルファーム的なもの)の設立・運営に深く関わっており、地域のメニュー(社会資源)を増やすことを意識した実践を通して、次に目指すものは何かを真剣に模索していた時期でした。



ヴァンホーンさんへのたくさんの感謝の中でも、私の人生や実践でも今に続き、そして、今後も、多くの人に伝えたい二つのこと(もてなしの心・幸せ)に触れたいと思います。

ヴァンホーンさんはもてなしの心(ホスピタリティ)を語られたわけではありません。ただ、我々が宿泊中のホテルに毎朝来られ、挨拶をし、ヴィレッジ向かう我々のバスを見送り、バスがヴィレッジに到着すると、先まわりをしたヴァンホーンさんが迎えてくださる。充実した一日の研修を終え、ホテルに戻るとゲストルームにはヴァンホーンさん

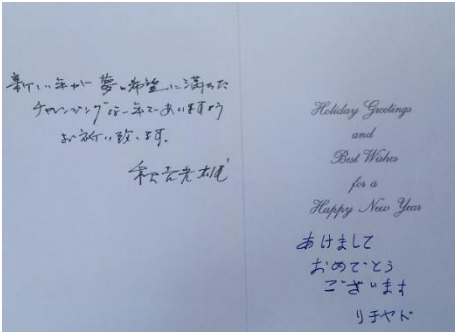
をはじめ、ヴィレッジのスタッフが交代で来られ、秋吉光雄さんや通訳の熊谷順子さんを介して、真剣な中にも和やかな語り合いが深夜まで行われました。最終日、クイーンメリー号でのカクテルパーティーが行われました。豪華でスマートな演出の中でも「人と人の心が触れ合う夢の時間」を作ってくださいました。

親日家のヴァンホーンさんと秋吉光雄さんがおられて初めて実現したこともかもしれませんが「人を人として大切にする」「人をもてなす」そのことを笑顔や行動、様々な心遣いで示してくださいました。



後ろ左から  
秋吉さん・  
ヴァンホーンさん  
・マーサさん

1996年1月  
自宅に届いたカード



ヴァンホーンさんはセミナーの冒頭「誰もが幸せを求めている。しかし、幸せは一人一人違う。だから、一人一人の夢や希望を聞き、それを否定せず、その実現のために励まし、一人ひとりの幸せを実現するためのお手伝いをするのがヴィレッジのスタッフの役割だ」と話をされました。

福祉大学での4年間「幸せとは何か」を深めることが私のテーマでした。しかし、その答えは見つからず、仕事を始めても日々出会う方々の幸せは願っていたものの、それは未だ霧がかかったようなものでした。しかし、ヴァンホーンさんの話を聞き、ヴィレッジでの実践にふれることで、そのことは明確になっていきました。

今は亡き谷中先生、仁木美知子さんやヴィレッジセミナーや交流促進協会に出会った全ての方に感謝すると同時に、私の心の深いところに生きることへの静かだが熱いものをもたらして下さいリチャード・ヴァンホーンさん、ヴィレッジの皆さんに感謝します。

## \* 2019年イタリア地域精神保健研修報告 第10回

### 3 フリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州トリエステの研修

#### 3-3 リハビリと住居のユニットでの研修

ユニット責任者のアルテューロ・リップパさんにお話を伺います。

我々は精神医療の専門職として働いています。様々な困難を抱え一般的な生活が難しい方々が、社会生活に復帰できるように様々な活動をするのが我々の役割です。それぞれの人が社会復帰できるまでのプログラムを作って、それを支える活動を行っています。



まず患者さんにはセンターに来ていただきます。そしてどのような問題があり、どのような障害があるのか、そして更にその患者さんがどのような希望を持っているのか、そこまではっきりと聞いたうえで、どのように治療していくのかを検討していきます。その様な事を十分に検討して行わないと人間関係を壊してしまう場合も多いのです。自立能力を失って中にはかなり重症の人も出てくるわけです。

センターでは受付にいる2名の医療従事者が患者さんを受け入れ、基本的対処法を決めていきます。毎日、昼前後の時間帯に会議を開き、受付の2名を含めた全員で新規患者さんの情報共有をします。出来るだけ患者さんが来たその日のうちに、マネージャーを付けて小さなグループでサポートする体制を作り、患者さんを含めて話し合いをします。そして患者さんが何を必要としているかを判断して対応していきます。必要であれば直ぐに精神科医師が薬の処方もします。まずは症状を軽くするという努力をします。

患者さんを中心として核となる小さなグループでの対応が一段落したところで、もっと広い枠組みで患

者さんを支えることを考えます。その時に我々のリハビリと住居のユニットの担当者が入っていき、更に広範囲な個人向けサポートプログラムを作っていきます。

先ず基本的に何を必要としているか？を明らかにして、それを解決して社会に復帰できるようにするにはどの様な対処をしていったらよいか、患者さんを含めて検討しながらプログラムを作ります。これは4つのセンターは何処でも実施しています。また SPDC に収容された人についてもセンターから出向いていき同じこと、状況に合わせた個人個人のプログラムを作ります。1対1の単純な対処方法から多くの人が関係する複合的な複雑なプログラムで患者さんの環境の全てをサポートしていきます。

障がいの方が重ければ数々の問題を持っていますし、家族との関係が悪ければ更に問題です。精神科医だけではなく心理療法士やリハビリテーション専門士など様々な専門家の介入が必要です。また内部の専門家だけではなく、外部の福祉担当者やワーカーなども含めてプログラムは行われます。そしてそれらの専門家をコーディネートするのがケースマネージャーで、普通は看護師がケースマネージャーになります。

治療が何年で終わるかというのは一概に言えませんし、良くなった人についても何時でも我々はスタンバイしていて緊急時には直ぐに対応しますが、我々は社会に戻って暮らして欲しいとの願いがあるので、社会と関与する領域を広くして社会の中で自立できるように、我々が関与しない広い社会の中で生活できるように支援をしています。

イタリアでは本当に個人的なプログラムが多く、彼らが実現したいことは私たちが考えている事と多少違うかもしれません。ですから彼らが実現したいことに向けた個人的なプログラムを作っていきます。

プログラムを作るには大きく3つのことが有ると思います。一つは居住空間をどの様にするか、次は就労の問題、最後は社会的な人間関係をどの様にするかという事です。これらのプログラムを進めていくには予算が必要です。一つはデイケアのような場所の予算と個人的な事を進めるための予算です。デイケアのような場所というのは、地域内にある彼らを受け入れて活動している場所で、社会の中で生活できるようにしていくために、これらの場所は大変重要で必要なのです。各自のプログラムに沿って市内の各地で行われる活動の中から適したところに移動しながらプログラムを実行していきます。かなり重症だと思う人でも薬や精神医療だけでは無く、社会的なネットワークの中で自分のプログラムを実現していくなかで治療を行っています。でもそれだけでは未だ足りない、地域の中に活動できる場所を拡散していかななくてはならない。そして更に強力な介入が必要であるという場合は個人に予算をつけてもらい、コープの参入を促します。トリエステでは社会的ネットワークを地下鉄路線図のように見える化しており、この様な事から「町が患者を治す」と考えられており、患者が必要とすることを町が満たしてくれています。そして彼らが人間として、個人として社会に復帰する手段になっています。様々なボランティアや家族が関わっています。政府からの資金は十分には出ませんが、家族会やその他の非営利団体がこのような活動を行い、支援を展開しています。

もっと大きな問題は、患者が抱えている住居の問題です。160人が予算をつけてもらってケアをしています。

患者に対する州の予算は年間 350 万ユーロで 4 年間ではトータル 1400 万ユーロが支援されることとなります。この予算の対象は、住居、就労、社会関係構築で、個人毎





に希望も踏まえて使用方法を考えます。協同組合に協力を求める場合が多く、その時は協同組合に1日当たり22ユーロの協力金が支払われます。トリエステの現在の人口は21万人で患者は約5000人います。

昔の精神病院は死んだような状態の患者を抱えていて、その時の精神病院のコストは莫大なものでした。閉じ込めておくことはある意味簡単だが、町が患者を治すという考えのトリエステは苦勞する甲斐があります。最近ヨーロッパから来た見学者と、今のコストがどの位かかるか話したことが有ります。その国は大変民間の施設が多い国でしたが、例えばがん患者がいた場合、ある一定の年齢を超えた高齢患者には治療を施さないとの事でした。イタリアでは誰でも同じような治療を受けられるという事が原則です。放置されることはありません。我々トリエステの精神保健局も誰も放置しないという事を原則にしております。誰でも最大限最良の治療を受けられるという事です。医療従事者にとって大変困難な作業になるかもしれませんが、非常に高い成功率で成果が上がっているという事が言えます。病院に閉じ込めるのは簡単な事ですが、大変問題なのです。あなたが当事者だったとして閉じ込められたらどうでしょうか？バザーリアが教えてくれたように精神疾患というのは適切な対処をすれば解決することができるのです。

我々が求めているのは患者自身が目標を持って、希望を持って、各自で生きていけるようにしていく事です。どの様な疾患を持っている人でも、夫々は人間であるという事で、尊厳を持った生活を送る権利があるという事です。

次回に続く

#### \* 事務局からのお知らせ



◎癒しの空間「ギャラリー喫茶 こけむしろ」(愛媛県西予市)の写真が届きましたので紹介します。

今年は梅雨明けが最も遅れた四国ですが、梅雨明け翌日に訪れたそうです。「雨上がりの木漏れ日に苔が輝いていました」とのコメントもいただきました。

(Photo by Kyoko)



—編集後記— 遂に1年遅れでオリンピックが始まりました。金メダル1号や兄妹での同日金メダルなど話題は多くありますが、一躍有名になったのは新競技スケートボードではないでしょうか。公園で子供が遊んでいるスケボーがオリンピック競技に！そして初代金メダルが日本人の手に！でビックリしていたところ、なんと女子では13歳の西矢選手金メダル、同じく13歳のブラジル選手が銀、16歳中山選手銅と10代が席卷しました。体操でも19歳橋本選手が金に輝きました。その中でも無観客開催が決まった開会式会場外に人が溢れている様子が映し出され、既に第5波が拡大中なのに心配です。(m.niki)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL070-8438-0688